



平成 27 年 度
(平成 26 年度実績)

食肉衛生検査業務概要



鹿児島市食肉衛生検査所

はじめに

鹿児島市食肉衛生検査所の業務につきましては、平素から格段のご理解とご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

本年4月1日に施行された省令改正において、「HACCP導入型基準」が追加され、と畜場においてもHACCP方式による衛生基準が推進されることとなりました。

今回の改正は、国際標準であるHACCPによる衛生管理を導入するため、将来的なHACCPの義務化を見据え、段階的な導入を図る観点から行われたもので、事業者等に対し、専門的かつきめ細かな指導・助言ができる体制を検査所に求められたものと認識しております。

当食肉衛生検査所といたしましてもHACCP導入に向け、万全な推進・指導体制を構築し、安全で衛生的な食肉流通のため、今後も鋭意努力してまいりたいと考えております。

昨年全国的に発生した豚流行性下痢（PED）は、沈静化の状況にありますが、依然として散発的な発生が見受けられております。また、口蹄疫の国内での再発の懸念もあることから、引き続き、と畜場への消毒の徹底、防疫及び衛生指導を実施し、と畜場を介した疾病の蔓延防止に努めてまいります。

最後に、今後も関係機関との連携強化を図り、より一層安全・安心な食肉の提供のため、最新の獣医学に立脚した食肉検査の実施、残留有害物質の検査、日々の検査技術の研鑽、知識の習得等に努めるとともに、家畜伝染病の発生に対する危機管理体制を強化し、緊急事態に対応できるよう検査所運営に取り組んでまいりますので、関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

ここに、平成27年度食肉衛生検査業務概要（平成26年度実績）を取りまとめましたので、ご高覧ください。

平成27年9月

鹿児島市食肉衛生検査所
所長 岸良 弘昭

目 次

第1章 検査所の概要

1	沿革	1
2	所在地	2
		3
3	組織機構	3
4	職員構成	3
5	事務分掌	4
6	検査手数料等	
	(1) と畜検査手数料	
	(2) と畜場使用料・とさつ解体料	5、6
7	検査所管理棟平面図	7
8	主要検査機器	8
9	鹿児島食肉センターの概要	

7

第2章 と畜検査業務の概要

1	と畜検査頭数	
	(1) 年度別と畜検査頭数	9
	(2) 年度別と畜検査頭数の推移	9
	(3) 月別と畜検査頭数	10
	(4) 月別と畜検査頭数の推移	10
	(5) 出荷地別と畜検査頭数	11
	(6) 湯剥ぎ、皮剥ぎの推移	11
2	と畜検査に基づく廃棄処分頭数	
	(1) 廃棄の疾病別頭数	12
	(2) 年度別全部廃棄頭数の推移	13
	(3) 牛の全部廃棄状況	14
	(4) 豚の全部廃棄状況	15
3	精密検査実施状況	
	(1) 枝肉の拭き取り検査	16
	(2) 抗菌性物質の残留検査	16
	(3) BSE(牛海綿状脳症)の検査	17
4	その他	
	(1) 衛生講習会	17
	(2) 普及啓発	17

第3章 調査研究、研修等

1	調査研究部会	18
2	調査研究および発表	18
3	職員の技術研修等	19

第1章 検査所の概要

1. 沿革

明治 42 年 7 月	『鹿児島市営と畜場』を鹿児島郡伊敷村字松木川原に設置
大正 9 年 10 月	伊敷村の一部合併により経営権を伊敷村へ移譲
大正 13 年 7 月	と畜場を伊敷村下伊敷 557 - 2 に移転し、名称を『伊敷村営屠場』へ
昭和 25 年 10 月	伊敷村との全面合併により、経営権を鹿児島市へ移行 と畜検査業務は保健所公衆保健課が所管
昭和 32 年 10 月	と畜場を郡元町 2411（現：新栄町 22-34）に移転
昭和 34 年 10 月	機構改革により所管を中央保健所公衆保健課から中央保健所公衆衛生課へ 変更
昭和 46 年 10 月	中央保健所公衆衛生課に食肉検査係を新設
昭和 50 年 2 月	試験検査室の新設
昭和 53 年 2 月	病畜棟(134 m ²)の新設、検査員事務室（64 m ² ）の増設
平成 4 年 4 月	食肉検査係から食肉検査課に昇格
平成 8 年 4 月	鹿児島市が中核市へ移行
平成 8 年 10 月	と畜場を新栄町 22-34 から下福元町 7852 に移転
平成 9 年 4 月	食肉検査課から食肉衛生検査所へ改称
平成 12 年 4 月	機構改革により環境局中央保健所食肉衛生検査所から 健康福祉局保健所食肉衛生検査所へ変更
平成 15 年 4 月	と畜場を民営化し、名称を『鹿児島食肉センター』へ
平成 19 年 2 月	試験検査室等の増築
平成 22 年 3 月	と畜場が対タイ輸出牛肉取扱い施設として認定される および対マカオ輸出牛肉取扱い施設として選定される

2. 所在地

名 称 鹿児島市食肉衛生検査所（鹿児島食肉センター内）

郵便番号 891-0144

住 所 鹿児島市下福元町7852

電 話 (099) 262-2116

F A X (099) 262-4940

アクセス方法

①JRを利用

JR鹿児島中央駅より、JR指宿枕崎線「指宿行き」に乗車、JR五位野駅で下車
JR五位野駅から鹿児島食肉センターまでタクシーで約5分、徒歩で約20分

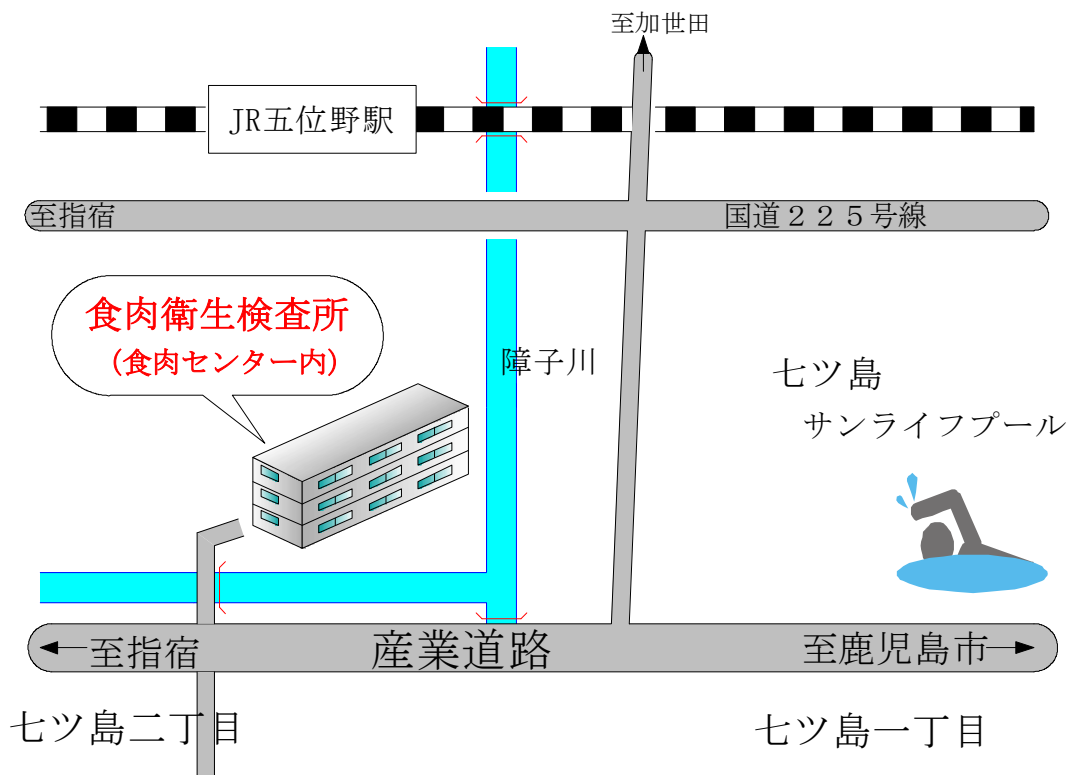
②航空を利用

1) 空港よりタクシー利用の場合

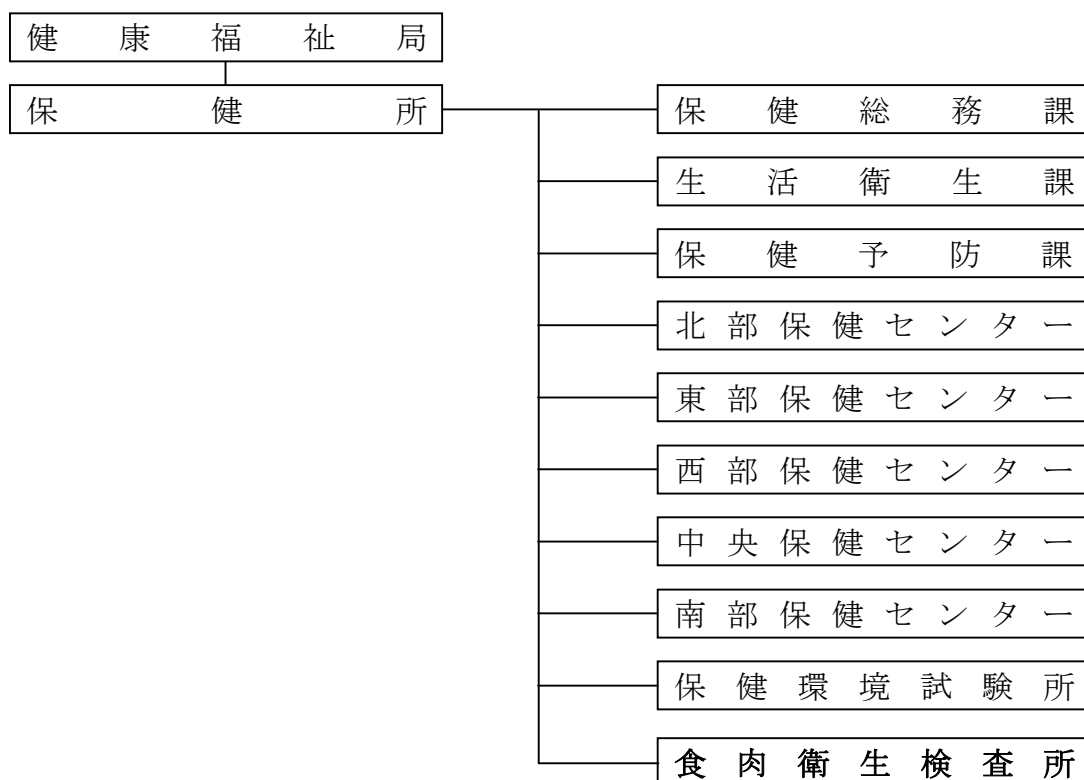
九州自動車道（溝辺鹿児島空港インターチェンジ）から指宿スカイライン（有料道路）を通り谷山インターチェンジを出て、「鹿児島食肉センター」まで約1時間

2) 空港よりバス利用の場合

空港より高速バス（直行便）でJR鹿児島中央駅まで約40分 その後JRを利用



3. 組織機構



4. 職員構成

27年4月1日現在

職名	所長	主幹	主査	主任	獣医師	主査	嘱託*	臨時職員		合計
職種	獣医師					事務	獣医師	補助員	事務	
人数	1名	3名	1名	6名	2名	1名	1名	7名	1名	23名

*延べ2名

5. 事務分掌

○鹿児島市組織及び事務分掌等に関する規則（抜粋）

昭和62年3月31日

規則第22号

第8条 前条に定める課及び係の事務分掌は次のとおりとする。

食肉衛生検査所

- (1) と畜場法に基づくと畜検査及び衛生指導に関すること。
- (2) 食品衛生法に基づく監視指導、収去・検査及び措置に関すること。
(他の所掌に係るものを除く。)
- (3) 公印の保管に関すること。
- (4) その他所に属する軽易な庶務に関すること。

食鳥検査については、市保健所—生活衛生課—獣疫係が所掌し、検査業務を指定検査機関の公益財団法人鹿児島市獣医公衆衛生協会に委任している。

6. 検査手数料等

(1) と畜検査手数料

(1頭あたりの手数料)

区 分	時間内	時間外
牛・馬	760円	1,520円
子牛・子馬	380円	760円
豚	350円	700円
乳とく、めん羊、山羊	170円	340円
摘 要	平成19年4月1日施行	

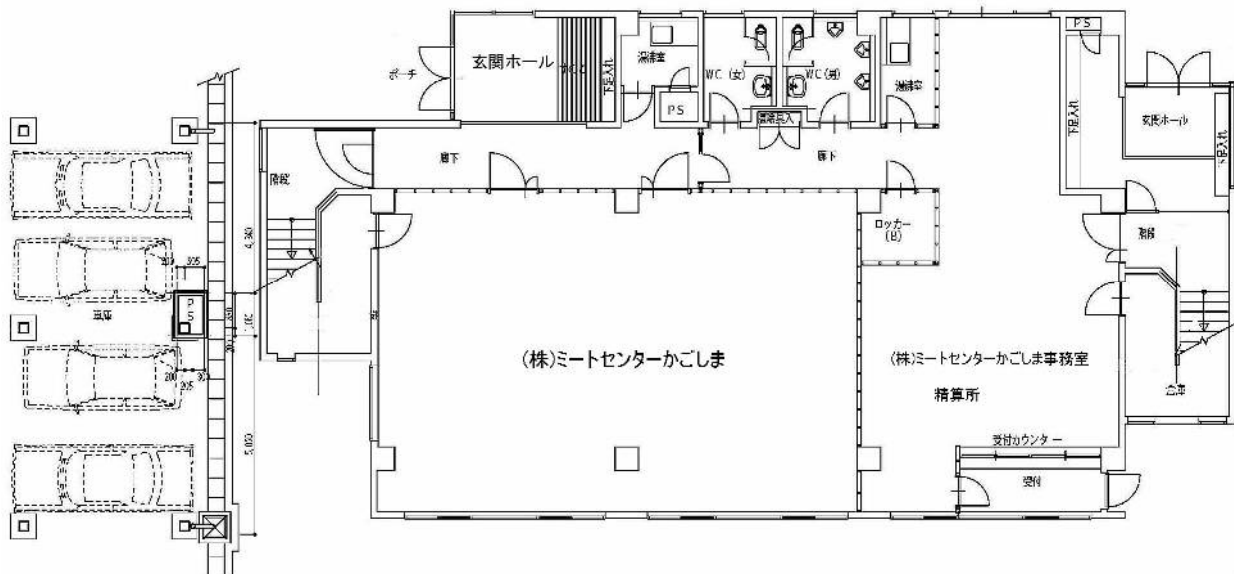
(2) と畜場使用料・とさつ解体料 (※平成26年4月1日改正)

(1頭あたりの料金)

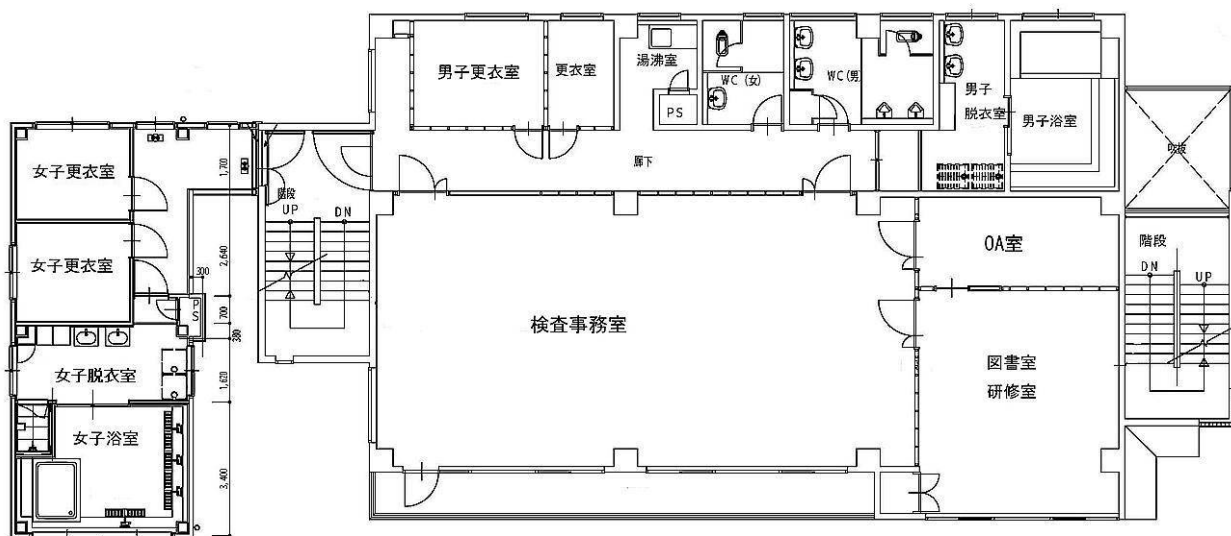
区 分			時間内	時間外	
と畜場 使用料	牛・馬		2,203円	3,304円	
	子牛・子馬		1,101円	1,652円	
	豚	皮剥ぎ	1,101円	1,652円	
		湯剥ぎ	1,242円		
	乳とく、めん羊、山羊		237円	356円	
とさつ 解体料	牛・馬		5,190円	8,441円	
	子牛・子馬		3,198円	6,868円	
	豚	普通	皮剥ぎ	692円	3,439円
			湯剥ぎ		
	豚	大貫	皮剥ぎ	(機 械) 1,426円	4,593円
			湯剥ぎ	(手剥ぎ) 1,845円	
	乳とく、めん羊、山羊		1,573円	5,243円	

7. 検査所管理棟平面図

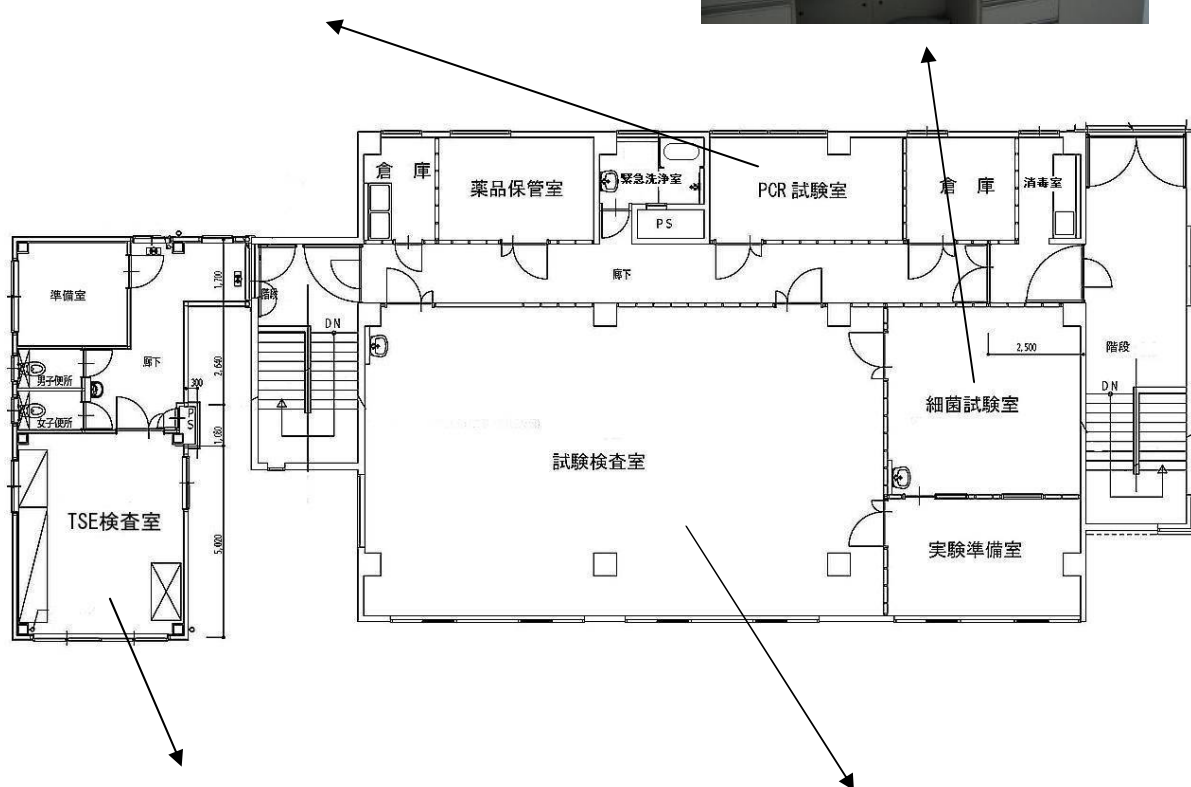
食肉衛生検査所管理棟（1階）



食肉衛生検査所管理棟（2階）



食肉衛生検査所管理棟（3階）



18. 主要検査機器

微生物検査関係	乾熱滅菌器	インキュベーター	試験管ミキサー
	マグネットスターラー	オートクレーブ	実体顕微鏡
	位相差顕微鏡	嫌気培養ジャー	ディープフリーザー
	高速冷却遠心機	ディスカッション顕微鏡	保冷库
	冷蔵ショーケース	バイオクリーンベンチ	試験管攪拌器
	孵卵器	万能シェーカー	低温恒温器
	湯煎器	DNA 増幅装置	紫外線照射装置
	アルミブロック恒温槽	嫌気性培養装置	微量電子天秤
	ミキサー	電気泳動装置	電気泳動ゲル撮影装置
	安全キャビネット	ピペット洗浄器	

理化学検査関係	超音波洗浄機	血液生化学自動分析装置	水分計
	電子分析天秤	高速液体クロマトグラフ	ロータリーエバポレーター
	pH メーター	アスピレーター	振とう器
	卓上型生化学検査システム	超高速ホモジナイザー	

病理検査関係	自動固定包埋装置	病理組織検査用顕微鏡システム	パラフィン包埋ブロック作成装置
	クリオスタットマイクロトーム	組織固定用振とう器	パラフィン伸展器
	マイクロトーム		

BSE検査関係	マイクロプレートリーダー	試験管ミキサー	組織・細胞破碎装置
	マイクロプレートウォッシャー	インキュベーター	高速冷却遠心機
	安全キャビネット	アルミブロック恒温槽	電子天秤
	保冷库		

9. 鹿児島食肉センターの概要

(1) 敷地面積 29,846.61 m² (9,044 坪)

(2) 建築面積 11,076.96 m²

(3) 延床面積 14,461.16 m²

本館棟 12,353.78 m²

(m²)

		小計	大動物	小動物	共用
とさつ解体施設	係留バース				1,740
	係留施設		369	958	
	と室・解体室	7,233	323	926	
	内臓処理室 休憩室・工作室・廊下等		144	264	2,509
冷蔵室		462	205	257	
部分肉処理加工施設		3,738	929	1,985	824
共用施設 (冷凍機械室、医務室等)		920			920
計		12,353	1,670	4,690	5,993

管理棟 967.60 m²
 廃棄物処理棟 420.00 m²
 汚水処理棟 381.72 m²

病畜棟 262.50 m²
 受水槽棟 75.56 m²

(4) 処理能力

	大動物	小動物
けい留所収容	57頭	1,000頭
とさつ・解体	80頭/日	1,300頭/日
懸肉・予冷	—	1,300頭/日
冷却・冷蔵	200頭	1,900頭 (部分肉処理加工施設含む)
部分肉処理加工	45頭/日	400頭/日

第2章 と畜検査業務の概要

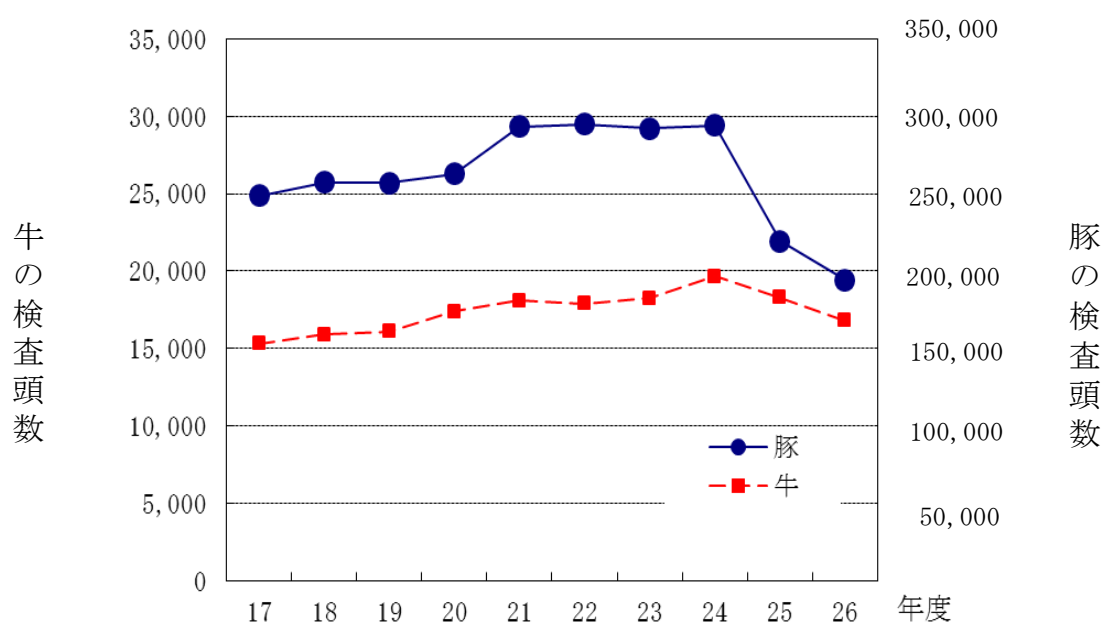
1. と畜検査頭数

(1) 年度別と畜検査頭数

年度	牛		子牛		馬		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
17	15,260	66	27	1	23	3	248,722	21	264,123
18	15,817	104	22	1	14	0	257,239	38	273,235
19	16,009	85	18	2	15	1	256,830	42	273,002
20	17,278	109	25	2	18	0	262,888	31	280,351
21	17,993	100	39	2	12	1	293,171	26	311,344
22	17,780	135	63	2	5	0	294,839	32	312,856
23	18,126	112	17	5	3	0	292,039	26	310,328
24	19,543	105	20	3	2	0	294,017	32	313,722
25	18,191	90	6	0	0	0	219,180	36	237,503
26	16,719	101	14	3	0	0	194,150	21	211,008
	16,820		17		0		194,171		
	16,837						194,171		

注) 子牛は生後1年未満の牛をいう。

(2) 年度別と畜検査頭数の推移

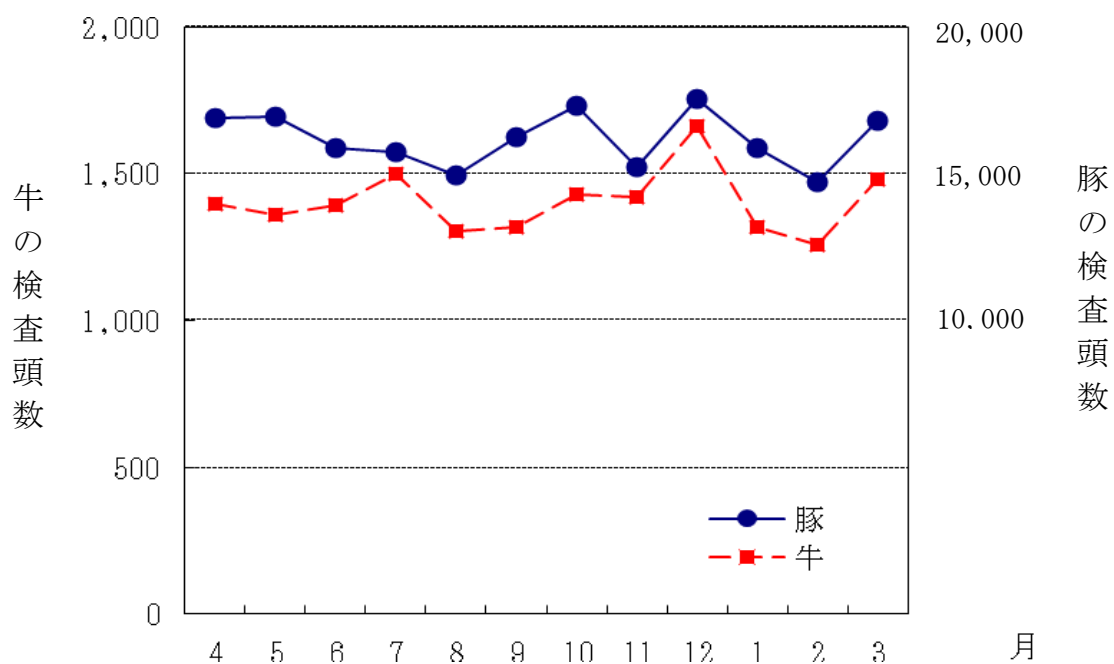


注) 25年度は大手出荷者の撤退により減となった。

(3) 月別と畜検査頭数

月	牛		子牛		豚		合計
	時間内	外	時間内	外	時間内	外	
4月	1,388	8	1	0	16,911	0	18,308
5月	1,349	10	1	1	16,949	1	18,311
6月	1,376	13	1	1	15,854	2	17,247
7月	1,490	6	1	0	15,746	0	17,243
8月	1,295	8	3	0	14,960	0	16,266
9月	1,302	12	2	0	16,259	3	17,578
10月	1,421	8	0	0	17,322	3	18,754
11月	1,414	4	0	0	15,219	2	16,639
12月	1,658	4	1	0	17,555	4	19,222
1月	1,308	8	3	1	15,883	2	17,205
2月	1,248	8	1	0	14,692	1	15,950
3月	1,470	12	0	0	16,800	3	18,285
合計	16,719	101	14	3	194,150	21	211,008

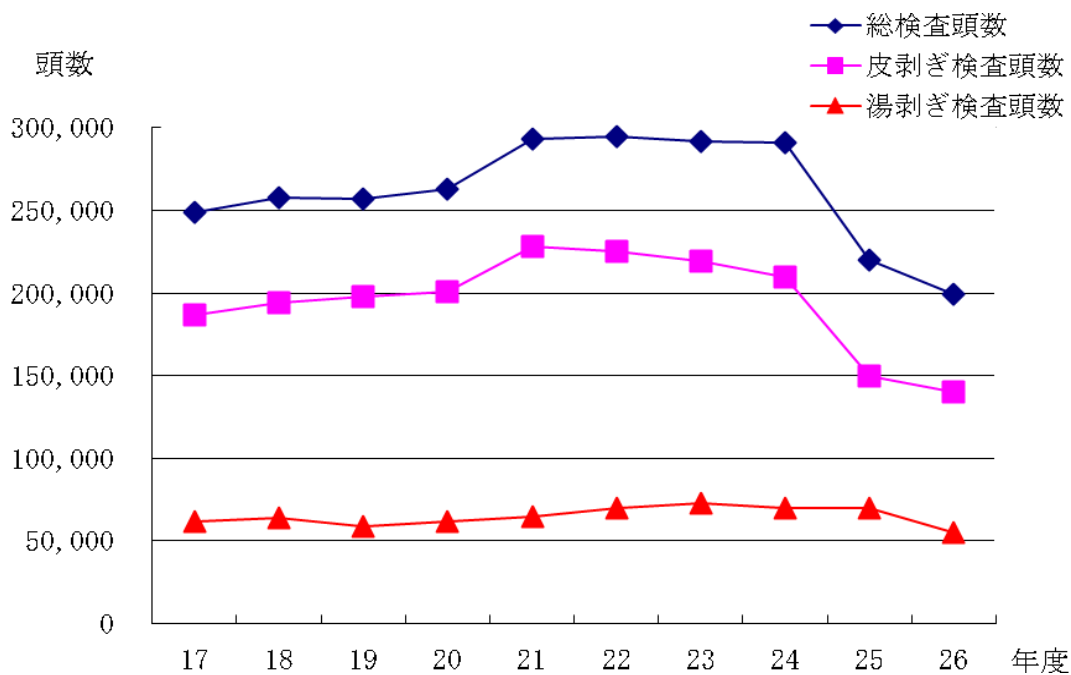
(4) 月別と畜検査頭数の推移



(5) 出荷地別と畜検査頭数

	牛の出荷地							豚の出荷地	
	和牛	乳牛		その他	子牛	総数	%	豚	%
		雌	去勢						
鹿児島地区	510	12	0	2	0	524	3.1	991	0.5
指宿地区	1,090	8	194	480	2	1,774	10.5	8,562	4.4
川辺地区	1,663	75	34	31	1	1,804	10.7	64,164	33.0
日置地区	1,104	22	2	34	0	1,162	6.9	0	0.0
薩摩地区	531	3	0	989	4	1,527	9.1	21,763	11.2
出水地区	864	16	0	0	1	881	5.2	3,705	1.9
伊佐地区	490	9	0	51	0	550	3.3	11,617	6.0
始良地区	776	95	3	0	6	880	5.2	9,494	4.9
曾於地区	666	25	1	0	0	692	4.1	16,901	8.7
肝属地区	3,316	130	0	9	1	3,456	20.5	33,864	17.4
熊毛地区	211	25	0	0	1	237	1.4	288	0.2
大島地区	37	0	0	0	0	37	0.2	549	0.3
宮崎県	1,493	714	1	4	0	2,212	13.2	18,241	9.4
熊本県	112	194	4	1	0	311	1.9	3,873	2.0
その他	536	208	1	44	1	790	4.7	159	0.1
計	13,399	1,536	240	1,645	17	16,837	100	194,171	100

(6) 湯剥ぎ、皮剥ぎの推移



2. と畜検査結果に基づく措置

(1) とさつ禁止又は廃棄の疾病別頭数

種別	と畜場内とさつ頭数	処分内容	処分実頭数		疾病別																		計							
					細菌				ウイルス	寄生虫病		その他										疾病								
					炭疽	豚丹毒	サルモネラ病	結核	ブルセラ病	破傷風	放線菌	その他	豚コレラ	その他	のう虫	ジストマ	その他	膿毒	敗血症	尿毒症	黄疸	水腫		腫瘍	中毒	中毒	物による汚染	炎症又は炎症産	変性又は萎縮	その他
					頭数	%	頭数	%																						
牛	16,820	禁止																												
		全部廃棄	70	0.4								27				4	11	2	4	19	2					1		70		
		一部廃棄	11,019	65.5										108							2			9,780	2,756	1,070		13,716		
子牛	17	禁止																												
		全部廃棄	3	17.6												1				1	1							3		
		一部廃棄	12	70.6																				12	5	6		23		
豚	194,171	禁止																										0		
		全部廃棄	453	0.2		10	8	12									191	96	6	6	98	3				23		453		
		一部廃棄	144,111	74.2																		15		163,202	2,049	7,994		173,260		
合計	211,008		155,668			10	8	12				27		108	0	196	107	8	10	118	23		172,994	4,834	9,070	187,525				

(2) 年度別全部廃棄頭数の推移

牛

疾病\年度	19	20	21	22	23	24	25	26
膿毒症	5	5	8	7	3	7	8	5
敗血症	8	8	5	13	7	10	15	11
尿毒症	6	11	6	14	17	8	3	2
高度の黄疸	4	2	5	4	8	4	6	4
高度の水腫	16	36	18	22	21	26	11	20
腫瘍	18	23	34	23	9	13	15	3
炎症又は炎症産物								
変性又は萎縮				1				1
牛白血病					31	41	50	27
計	57	85	76	84	96	109	108	73

H23年度より「腫瘍」のうち牛白血病と診断できたものは「牛白血病」に分類

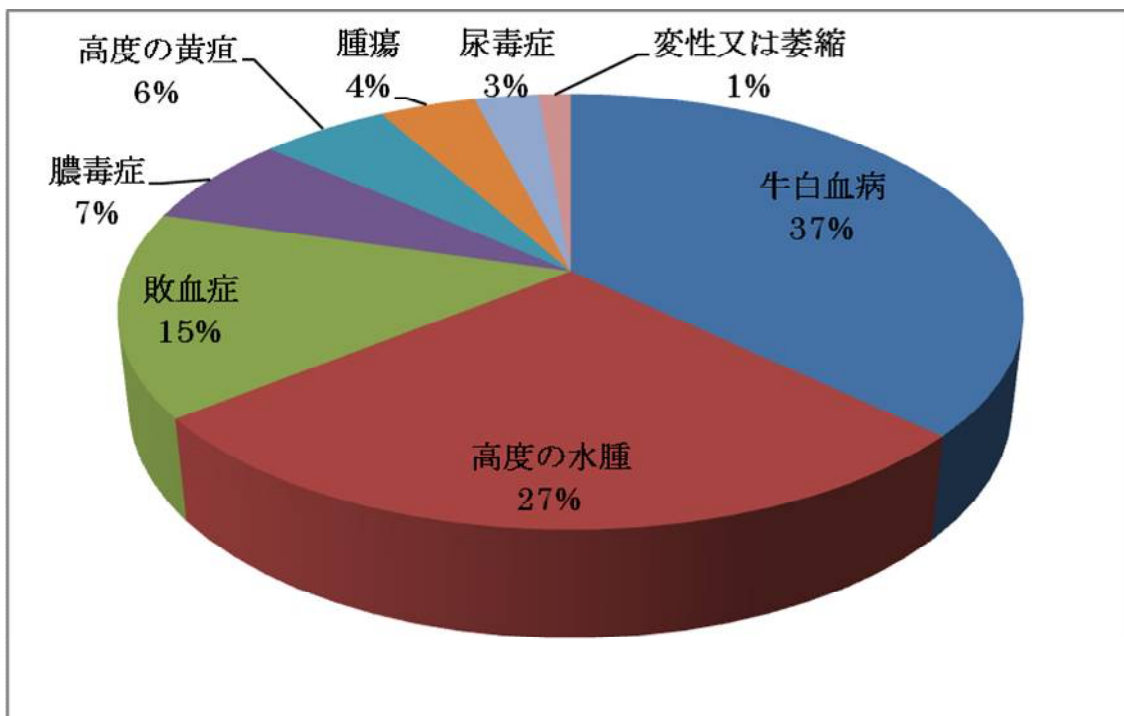
豚

疾病\年度	19	20	21	22	23	24	25	26
膿毒症	92	103	134	212	224	261	196	191
敗血症	28	35	30	88	80	167	87	96
尿毒症	14	12	14	14	17	20	11	6
豚丹毒	9	21	33	39	78	80	131	30
高度の黄疸	4	3	3	3	4	5	2	6
高度の水腫	132	129	111	150	200	256	104	98
腫瘍	6	14	47	29	21	24	8	3
炎症又は炎症産物								
変性又は萎縮	100	64	72	56	56	34	24	23
その他		2						
計	385	383	444	591	680	847	563	453

(3) 牛の全部廃棄状況

	牛									
	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	産物による汚染 炎症又は炎症	変性又は萎縮	牛白血病	合計
4月		1	1		1	1			4	8
5月	1				1				1	3
6月		1		1	3	1			3	9
7月	1	1							4	6
8月	1	2			1	1			2	7
9月		1		2	1				1	5
10月	1	1	1		2				3	8
11月	1	2			1			1		5
12月					1					1
1月				1	2				1	4
2月					1				4	5
3月		2			6				4	12
合計	5	11	2	4	20	3		1	27	73

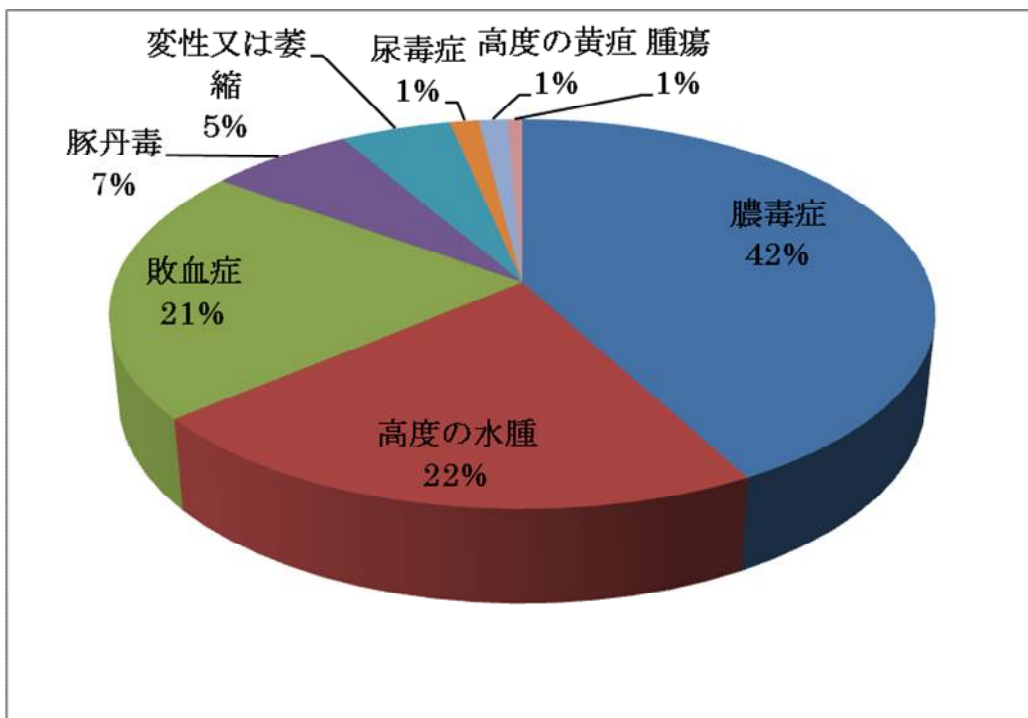
牛の全部廃棄の疾病別割合



(3) 豚の全部廃棄状況

	豚										
	豚丹毒	膿毒症	敗血症	尿毒症	高度の黄疸	高度の水腫	腫瘍	産物による炎症又は汚染症	変性又は萎縮	その他	合計
4月	4	19	8		1	19					51
5月	4	20	6		1	9			4		44
6月	1	9	2	1	1	6			3		23
7月	1	20	7	1	1	1			5		36
8月	1	18	9		1	3					32
9月	2	19	12			5			1		39
10月	4	21	4			8	1		2		40
11月	2	14	2	2		3	1		3		27
12月	4	21	14	1		9	1		2		52
1月	2	7	12			3			2		26
2月	3	7	10	1		4			1		26
3月	2	16	10		1	28					57
合計	30	191	96	6	6	98	3		23		453

豚の全部廃棄の疾病別割合



3. 精密検査実施状況

(1) 枝肉の拭き取り検査 (検体数)

項目 種別	一般細菌数	大腸菌群数	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌	黄色ブドウ球菌
牛	95	95	55	55	55
豚	95	95		55	55
計	190	190	55	110	110

(2) 抗菌性物質の残留検査

① 抗菌性物質の残留疑いの検査 (病畜棟搬入家畜及び注射痕のある家畜)

区分	畜種	牛	子牛	豚	計
検査頭数		307	13	400	720
検査結果 (陽性)	頭数	1	0	2	3
	枝肉	1	0	1	2
	肝臓	1	0	0	1
	腎臓	1	0	2	3
処分状況	食品衛生法適用	0	0	0	0
備考	自主廃棄	1	0	1	2

② 疾病疑いによる保留での検査

区分	畜種	牛	子牛	豚	計
検査頭数		89	4	600	693
検査結果 (陽性)	頭数	0	0	0	0
	枝肉	0	0	0	0
	肝臓	0	0	0	0
	腎臓	0	0	0	0
処分状況 (検査結果が陽性の症例について)	食品衛生法適用	0	0	0	0
	他の疾病名 で全部廃	0	0	0	0
備考	自主廃棄	0	0	0	0

③ モニタリング検査結果 (厚生労働省通知に基づく検査)

食品	検査検体数	検査項目数※	検査結果
牛の筋肉	11	11	検出せず
牛の腎臓	11	4	
豚の筋肉	20	11	
豚の腎臓	20	4	

※筋肉；一斉分析法 (テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ペニシリン系、スルファメザゾン、スルファモノメキシン、スルファジメキシン、チンフェニコール、オキサリム、トリメプリーム、ピリマタシン)

※腎臓；ディスク法 (テトラサイクリン系、アミノグリコシド系、マクロライド系、ペニシリン系)

(3) BSE (牛海綿状脳症) の検査

	検体数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
22年度	17,980	1,585	1,475	1,442	1,524	1,478	1,582	1,512	1,662	1,748	1,277	1,382	1,313
23年度	18,260	1,363	1,470	1,348	1,473	1,616	1,516	1,519	1,654	1,792	1,455	1,438	1,616
24年度	19,670	1,626	1,742	1,635	1,606	1,719	1,524	1,727	1,678	1,774	1,597	1,464	1,578
25年度	7,964	1,677	1,652	1,470	365	370	371	393	283	342	353	351	337
26年度	4,224	341	325	335	349	314	330	402	274	351	380	365	458
検査結果	陰 性												

4. その他

(1) 衛生講習会

と畜解体従事者を対象とした衛生講習会を実施した。

講習会内容	対象者	受講者数	実施時期
と畜場における HACCP について	解体従事者	20名	26年2月

(2) 普及啓発

平成26年8月、保健所食品衛生月間行事において、大型商業施設で「パネル展示」を行い、と畜検査について紹介した。

第3章 調査研究、研修等

1. 調査研究部会

鹿児島県食肉衛生検査所協議会の三部会に参加し、それぞれのテーマについて、調査・研究・情報交換等を行った。

＜平成26年度三部会テーマ＞

- (1) 病理部会 「『何だろう?』と題したアトラスの作成」
- (2) 理化学部会 「モニタリング検査基本マニュアル(Q&A)の作成および内部精度管理」
- (3) 微生物部会 ①「食鳥におけるサルモネラの保菌状況調査および分離培地の検討」
②「分離菌株保存状況調査」

2. 調査研究および発表

下記3テーマについて調査研究および発表を行った。

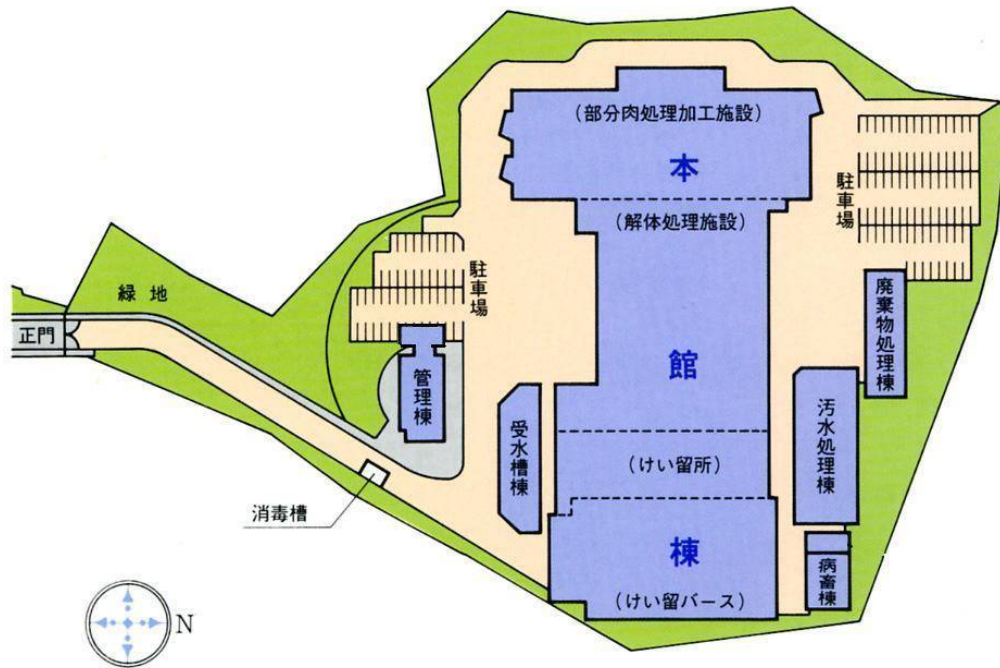
	調査研究テーマ	発表学会等
1	「牛白血病の過去3年の発生状況とデータベース作成」	鹿児島県獣医公衆衛生技術研修会 九州地区獣医師大会・三学会
2	「黄疸による脂肪の黄染度を数値化する試み」	鹿児島県獣医公衆衛生技術研修会 九州地区食肉衛生検査所協議会
3	「豚湯剥ぎ処理における細菌汚染状況調査」	鹿児島県獣医公衆衛生技術研修会

3. 職員の技術研修等

検査員の資質向上のため、所内研究発表の開催や、研修会および学会等へ参加した。

年 月	業務研修の内容	場 所
H26. 5	鹿児島県食肉衛生検査所協議会微生物部会	県末吉食肉衛生検査所
H26. 5	鹿児島県食肉衛生検査所協議会病理部会	県末吉食肉衛生検査所
H26. 5	鹿児島県食肉衛生検査所協議会理化学部会	県末吉食肉衛生検査所
H26. 5	全国食肉衛生検査所協議会病理学部会	神奈川県相模原市
H26. 6	平成 26 年度国立保健医療科学院研修「食肉衛生検査研修」	埼玉県和光市
H26. 9	全国食肉衛生検査所協議会理化学部会	千葉市
H26. 7	全国食肉衛生検査所長会議	東京都中野区
H26. 10	と畜場、食鳥処理場における HACCP 導入研修	東京都千代田区
H26. 10	九州食肉衛生検査所協議会研究部会	鹿児島市
H26. 11	全国食肉衛生検査所協議会微生物学部会	茨城県守谷市
H27. 1	平成 26 年度食肉衛生技術研修会及び衛生発表会	東京都千代田区
H27. 2	平成 26 年度日本獣医師会獣医学術会年次大会	岡山市
H27. 2	HACCP 研修（と畜場視察研修）	岐阜県高山市

施設配置図



平成27年度 業務概要

平成27年9月 発行
(第31集)

鹿児島市食肉衛生検査所
〒891-0144
鹿児島市下福元町7, 852
TEL 099(262)2116
FAX 099(262)4940